

中学校第2学年 音楽



クラウドに保存された演奏を聴き比べ、自分が考えた曲のよさや魅力がより効果的に伝わると感じる演奏を選んで聴き深める。

中学校第2学年 音楽 「曲の魅力をより効果的に伝える演奏を探そう」

■ 題材の目標

曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴き、音楽に対する感性を豊かにする。

■ 題材の概要

交響曲第5番ハ短調（ベートーヴェン作曲）の第1楽章を、二つの主題の特質や雰囲気の違いに着目しながら聴き、曲のよさや魅力について根拠をもって評価するとともに、指揮者や演奏者の異なる三つの演奏を聴き比べ、自分が考えたこの曲のよさや魅力を最も効果的に表現している演奏を一つ選び、聴き深める。

■ 題材の指導計画（3時間）

第1次（第1時、第2時）

「交響曲第5番ハ短調（第1楽章）の魅力を味わって聴こう」

- ・第1楽章を構成する二つの主題の旋律に着目しながら聴き比べ、その違いを捉える。
- ・二つの旋律がどのように配置されているかや、どのように変化しているかに注目しながら聴き、ソナタ形式のよさや面白さを味わう。

第2次（第3時）

「表現の違いによる曲の魅力の伝わり方の違いを味わいながら聴こう」

- ・三つの異なる演奏を聴き比べ、自分が捉えたこの曲の魅力を最も効果的に伝えている演奏を選び、聴き深める。

■ 各次の学習の概要

第1楽章においてソナタ形式を構成する二つの主題について「旋律」に着目し、その調整、リズム、音色（演奏する楽器）などの違いから、その性格や雰囲気の違いを捉えるとともに、二つの旋律の配置や変化などを踏まえながら、この曲のよさや魅力を伝える紹介文を書く。

クラウドに保存された、演奏者の異なる三つの演奏を聴き比べ、自分が捉えたこの曲のよさや魅力を最も効果的に伝えていると感じる演奏を一つ選んで聴き深め、その演奏を選んだ理由について説明する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2次）

【学習活動の場面】

演奏者の異なる三つの演奏を聴き比べ、同じ曲でも演奏者によって異なる表現方法があることを知るとともに、その違いによって印象が全く変わること気付く。

そこで、次のような課題を提示する。「前回、皆さんが紹介文の中で書いた〈この曲のよさや魅力〉を伝えるのに最も適していると感じた演奏を一つ選んでください。その上で、その演奏がどのような点で優れていると感じたかについてプレゼンしてください。」

【子供の「深い学び」の姿】

- A「Ⅰの演奏は、テンポが速くて疾走感があるね。」
B「逆にⅡの演奏は、すごく遅いテンポで重厚感が強調されていて、苦しみとか痛みがにじみ出ていると思う。心をグッと押し潰すような感じがする。」
C「テンポの違いで、同じ曲でも印象がスゴく変わるね。」
D「テンポの違いもあるけれど、Ⅲの古楽器の演奏は響きがⅠ・Ⅱとは違って聞こえない？」
C「確かに！Ⅰ・Ⅱの演奏は音色が溶け合っている感じだけど、Ⅲは響きがシャープな感じがして、"タタタン"というこの曲の重要な動機が明確に聞こえてくるね。」
A「うん、響きに注目すると個々の楽器の役割とか曲の仕組みとかがクリアに聞こえるね。でも、この曲の緊張感とか切迫感は、やっぱりⅠの演奏の突き進んでいくようなテンポがいちばん強く表現していると思うな。」

【当該指導での「深い学び」】

生徒は、異なる三つの演奏を聴き比べて、個々に味わったこの曲のよさや魅力を最も効果的に表現している演奏を選ぶ。ここでは、単に曲のよさや魅力を言語で表現するに活動に留まらず、実際の音や演奏と関わらせながら、自分の中に価値付けを行っている。また、音楽表現の多様性を実感するとともに、個々の演奏について自分なりに評価し、それぞれの価値を認めながらも、自分の価値観に基づいて演奏を評価しながら聴き深めている。

■指導上の工夫とICTの利活用

- ①個々の着眼点を明確にしながらか音楽を聴くことができるようにする。

*全体で一度聴いた後、クラウドに保存した演奏を聴くことにより、自分の聴きたい演奏、聴きたい部分に着目し、何度も繰り返し聴くことができる。

- ②補助資料（楽譜や楽器図鑑など）を必要に応じて自由に活用できるようにする。

*音色の変化に着目した生徒は、クラウドに保存した総譜を参照しながら聴くことによって、音色の変化と演奏している楽器の移り変わりとの関わりを確認することができる。

- ③曲や演奏のよさや魅力について、音楽と合体させてプレゼンすることができるようにする。

*学習支援ソフト等を活用することで、音楽を伴ったプレゼンを行うことができる。これは、聴き手にとっても、プレゼンの内容をより具体的に理解する上で有効である。



学習指導要領や解説との関連

本事例は、**中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽の「第2 内容」**の以下の事項と関わる題材である。

第2学年及び第3学年

「B鑑賞」(1) 鑑賞 ア(ア)、(ウ) イ(ア)

〔共通事項〕(1) ア

(生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」)

また、「**第3 指導計画の作成と内容の取扱い**」では、以下のように記載している。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(8) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

イ 第1学年では言葉で説明したり、**第2学年及び第3学年では批評したりする活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできるよう指導を工夫すること。**

なお、「**中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編**」（p.60）では、「B鑑賞」(1) 鑑賞の指導事項ア(ウ)「音楽表現の共通性や固有性」に係る指導について、以下のように解説している。

指導に当たっては、生徒が音楽表現の共通性や固有性について考えたことを基に、**教材として扱う音楽に対して、根拠をもって自分なりに評価できるようにすることが必要**である。